

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスげんき広場		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発：2 放デイ：23	(回答者数) 児発：2 放デイ：17
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		2024年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	土曜日、祝日が開所していること。 土曜日、祝日、長期休みの支援時間が長いこと。	児発の基本的な支援時間を超えて、本人の特性や希望に合わせて支援時間を延長することができるように話をしている。 放デイも学校休業日は早い支援時間で終わるところを、延長し学校がある時と同様の時間に支援を終えて送迎に出られるようにしている。	支援時間は柔軟に対応できるように、スケジュールの組み方に注意していく。 保護者様の要望をこまめにヒアリングする。
2	児発は異学年交流ができること。放デイと活動を共にすることで成長する点がある。 放デイは自分の意思決定を大切にしていること。	児発ではちょっと難しい公園などにお出かけし、お兄さんお姉さんの動きを見て、一緒に活動することで、「お兄さんのようになりたい」「お姉さんのようになりたい」という気持ちが芽生えるようにしている。 放デイは、高学年になるほど自分でスケジュールを組めるように話をしている。	意見をやる場を大切にしていく。
3	様々な外出体験を積むことができる。	長期休み後にアンケートを実施し、良かったところ工夫してほしいところなどをヒアリングするように努めている。 普段の活動でも、どの公園が良いかどの活動が良いかなどを子供たちと話す機会を設けている。	アンケート内容が固定化しないように工夫していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	異学年が多いので、同学年同士での関わりを持つ機会が少ない。	多機能型、賃貸物件ということもあり、バリアフリーであったり、トイレなどの施設が幼児向けにはなっていない部分がある。そのため、児発のみに特価した事業所よりは使い勝手が悪そうな印象を与えてしまっている。	支援内容でサポートできる点があることを積極的にアピールをする。
2	活動を放デイに合わせている事が多いので、児発には少し大変な時がある。	活動内容が固定化されがち（特に土曜日）なので、改善を図る必要がある。	職員同士の意見をより活発にし、どちらかに偏るなど固定化されないように改善を図る。
3	ワンフロアなので、スペースが狭い。	賃貸物件で、最低限の指導室を確保しているものの、子供の人数や特性によっては厳しいところがある。	パーティションを使用したり、活動の場をグループ分けするなど相性や特性、活動内容に合わせて対応を図る。